

『豪勢』 作：ポチ子

『豪勢』 作：ポチ子

今日の私の価値は、

目の前の食事と同じだ。

だから、

豪勢な食事が出てくれば喜ぶし、

大したこともないモノなら、

自分の価値はこんなものじゃないと、

説教を始めるだろう。

私は自分の価値を示すために、

新しいブランド服を着て、

高い化粧品を使い、

無駄にテーブルマナーを気にする。

私が豪勢な食事をできる時は、

虚勢の一步手前ぐらいをフラフラしている時だ。

どうして高い料理は冷たいんだろう。

温かい方が美味しいのに。

ちまちま、次々出てくるのも気に食わない。

そんなこと言えやしない。

この食事は私と同じであるから、

我慢しないとイケないのだ。